

戻ってきた独裁者

作

邑古宙道
(中村道彦)

2023年3月

歴史と文化を誇るヘリアンサス国の隣国にグレムリン国という大国がありました。グレムリン国の大統領プディングは国土拡大と西方地域への進出のため、隣国のヘリアンサスが欲しくてたまりませんでした。そこでヘリアンサスを独裁国家といいがかりをつけ、ヘリアンサスの住民を救済するという大義名分をつくり、軍を派遣しました。ヘリアンサス国の国民は大統領アレックスと一丸となって戦いました。しかしヘリアンサスの大地は荒廃し、多くの国民や兵隊が亡くなりました。

激しい戦闘で荒廃したヘリアンサス東部にある田舎町の小道を、薄汚い服を着た農夫が2人のグレムリン兵に連行されていました。そこへグレムリン軍の高級乗用車に乗った将軍が通りかかりました。将軍は直ぐに車から降りてきて、その農夫のところに来て最上級の敬礼をしました。＊

「私はヘリアンサス東部軍司令官のアルトゥール大佐であります。大統領閣下がお忍びで東部軍を激励のためお出でになることはうかがっておりましたが、このような農夫の姿をしてお見えになるとは想像もしておりませんでした。これからは東部軍が全力でお守りしますのでご安心ください。」とみすばらしい農夫に話をしました。そして連行していた兵士に丁重に兵舎にお連れするよう命じました。

農夫は何が起こっているのかわからぬままにグレムリン東部軍の立派な兵舎に案内され、美しい軍服と沢山の勲章を渡されました。この農夫はヨナスといます。やがて先の将軍が数名の立派な上官を連れて兵舎に現れ、軍の車に案内して東部軍の戦意高揚のため閲兵をお願いしました。ヨナスは言われるままに車座席に立ち、兵士たちに笑顔で手を振りました。ヨナスが通るたびに兵士は「ウラー、ウラー」と歓声をあげました。

一方、グレムリン国の大統領プディングは少数の護衛兵と共に、グレムリン国境を越えていましたが、ヘリアンサス軍の攻撃を受け護衛兵は倒れ、プディング大統領は装甲車のような車にいたお陰で命拾いをしましたが、車から逃げ出すの

が精一杯でした。プディングは焦げた服をまとい、見知らぬ小道をふらふらと歩いていました。そこにグレムリン軍の部隊がやって来ました。部隊長は東部司令官からプディング大統領が既に到着したことを聞いていたので、道をふらついていた男がプディング大統領とは気づきませんでした。その男は泥まみれの顔で破れた服を身に着けた避難者にしか見えませんでした。しかしその男は尊大な態度でグレムリン大統領のプディングだというので、最初は笑って聞いていましたが、男があまりに無礼な言動を繰り返すため、部隊長はとうとう腹を立ててしまいました。そして「貴様は自分が大統領閣下に似ているのを良いことにグレムリン軍を欺こうとするのは誠にけしからん。よって逮捕監禁する。」と言って兵に逮捕させました。

農夫ヨナスはグレムリン国の大統領官邸に連れてこられました。この間、ヨナスは偽の大統領だといつばれのるかびくびくしていましたが、誰も気づくことがなく、ヨナスも少し落ち着いてきました。そこで一計を案じ、大統領のふりをすることに決めました。何日か経ち、ヨナスは大統領府の主要閣僚を集めて話をしました。「ヘリアンサスへの軍事侵攻も1年以上になり、グレムリン国民も兵士も疲れてきておる。このままだとわが国も疲弊してしまいかねない。そこでこの軍事侵攻を中止して軍をグレムリン国境まで下げようと思うが、皆はどう思うかね。」と尋ねました。閣僚は自分の耳を疑いました。今まであれほど強気だった大統領が軍を引くとは考えられなかったからです。それで口々に理由を尋ねました。大統領は「皆も承知の通り、グレムリン国は大きな経済的な損失を抱え、世界からも批判されて孤立し、わが国の多くの若者が戦地で亡くなっている。このままだとグレムリン国の繁栄ある未来はみえない。グレムリン国を引き換えに軍事侵攻を続ける意味があるだろうか。」

大統領の真摯な態度に多くの閣僚は心の中で納得し、安心もしました。一部の閣僚には不満があったようですが、大多数の閣僚が賛成し、結局、反対派の閣僚は口をつぐんでしまいました。いつも暗く重い雰囲気の中、閣僚会議が、霧の晴れた

ように澄んだ明るい雰囲気になりました。大統領はさらに続けて話しました。「進行を終わらせるにあたって、何もなしとはいかないだろう。そこで私は大統領としての責任を裁判で問い、裁かれないと思う。そしてどれほど重い刑であっても受けるつもりだ。」再び、閣僚たちは驚きました。「大統領が一人でこの軍事侵攻の責任をとるのですか。」と何人かの閣僚が尋ねました。大統領は「そうだ。」と答えました。*

会議が終わり、大統領は側近に軍の退去と大統領の裁判の準備を命じました。側近の中でも最も大統領の信頼を得ている長官を呼び、次のように命じました。「よいか、グレムリンの刑務所に私のそっくりで自分が大統領だと言っている男が収容されている。裁判では私の代わりにその男を裁判に出して裁きを受けさせるのだ。この裁判は世界に公開して、大統領の犯した罪を世界中に伝え、世界中の裁判官に判決をゆだねるのだ。わかったか。」長官は静かに同意して部屋を下りました。

大統領の裁判でプディングに重い罰がくだりました。裁判の途中でこの男は「自分は大統領ではない。人まちがいた。」と叫びましたが、指紋や DNA 検査で疑いもなくプディングであることが証明され、彼の主張は通らず、この場に及んで見苦しいと嘲笑の的にされました。ヨナスはそっと母国に戻り、ヘリアンサスの大統領に一部始終を話しました。ヘリアンサスの大統領は、グレムリンの新たな大統領と共に、二つの国の再建のため、協力することを約束しました。

これは作り話です。でも平和を願う気持ちは作り話ではありません。平和を願う気持ちが世界中の人に起これば、この作り話は本当の話になります。夢をかなえる魔法は私達の手の中にあります。